

1. 科目名 (単位数)	学校臨床心理学特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP8267
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	現代の学校が抱える様々な問題に対応する際に、子ども達の遠矢の関係、子ども達同士の関係、子ども達と教師の関係、また、保護者を含む社会と学校との関係を人間科学 (現象学) では深いレベルで分析することができる。よって本講義では、ハイデガーの「存在と時間」を非常に分かり易く解説をしている Dreyfus の英文の著書を購読していく。現代社会のように IT 産業の発達に伴う対人関係の希薄化が及ぼす影響は大きい。また子ども達の生活環境の多文化を含む多様化は、学校生活においても見逃せない状況でもある。ハイデガーの現象学は、我々が日々行う相互作用の原点を人間科学の視点で考えさせるものである。この様に原点に立ち返り、この世界に存在する人々にとっての意味を、臨床心理学的見解に基づいて明らかにする。		
8. 学習目標	1. 現代の学校という教育環境に不足しているものは何か、オントロジーの視点から学校臨床心理学の問題点を追及する。 2. ハイデガーの現象学について理解を深め、望ましい学校臨床心理学の実践に迫る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1.各講義に関する章を読み理解を深め、自己の見解をまとめ提出する。 2.ファイナルレポート(1本)は、研究テーマに関連する問題点の一つに焦点を絞り、現象学的視点より論考する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 Dreyfus, Hubert L. Being-in-the-World. Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1991.</p> <p>【参考文献】 Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964 Parkes, Graham. Ed. Heidegger and Asian Thought. Honolulu: University of Hawaii Press, 1987. Spielberg, Herbert. Phenomenology in Psychology and Psychiatry. Evanston: Northwestern University Press, 1972. Adler, Alfred. Understanding Human Nature. Minnesota: Hazelden, 1998. Merleau-Ponty, M. Phenomenology of Perception. Translated by Colin Smith. London: Routledge, 1989 Heidegger, Martin. Being And Time. Translated by Macquarrie, J. & Robinson, E. New York: Harper & Row, Publishers, 1962. Gadamer, Hans-Georg. Truth and Method. Translation by Weinsheimer, J. & Marshall, D.G. New York: Crossroad, 1990. Wong, P.T. & Fry, P.S. The Human Quest for Meaning : A Handbook of Psychological Research and Clinical Applications. Routledge, 1998. Monk, G., Winslade, J., Crockett, K. & Epston, D. Narrative Therapy in Practice: The Archaeology of Hope 1997 (国重浩一・バーナード紫 訳『ナラティブ・アプローチの理論から実践まで: 希望を掘り当てる考古学』2008) 北王路書房 木田元『幼児の対人関係』みすず書房、2001年 木田元『ハイデガー拾い読み』新書館、2004年</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 上記の目標 1・2 を達成できること。</p> <p>○評定の方法 発表レジュメ(12 課題) 60% ファイナルレポート 40% (評価点) A: 100~90 B+: 89~80 B: 79~70 C: 69~60 F: 59 点以下</p>		
12. 受講生へのメッセージ	本講義では英文の教科書を使用しますので、各講義の準備をしっかりとさせていただきたいと思います。また、ディスカッション中心の講義によって人間の存在の意味を追求することにより、日常生活としての学校・家庭・社会という環境と子どもの発達と対人関係について理解を深めていきたいと思います。		
13. オフィスアワー	講義にて発表		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	第1章: ハイデガーの「存在と時間」に関して: 導入と方法について		
	<p>【学習の目標】ハイデガー現象学により学校臨床の在り方を探る。 【学習の内容】本講義の導入として、ハイデガー現象学に至る歴史的背景を理解する。 【キーワード】現象学・オントロジー/ the Question of Being by Way of Dasein 【学習の課題】教科書第1章を熟読する。 【参考文献】Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964</p>		
2. テーマ	第2章: ハイデガーの方法論的導入について		
	<p>【学習の目標】学校臨床心理学の現場における研究の在り方を議論する。 【学習の内容】ハイデガーの現象の捉え方を理解する。 【キーワード】The Phenomenon/ Logos/ Phenomenology/ Hermeneutics 【学習の課題】教科書第2章を熟読する。 【参考文献】Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964</p>		
3. テーマ	第3章: 世界内存在に関する概略について		
	<p>【学習の目標】現に存在する子どもたちの問題を現象学的に解釈する。 【学習の内容】世界内存在とはという問いと、現に存在する子どもたちの問題を対比する。 【キーワード】Being-in/ Heidegger's Critique 【学習の課題】教科書第3章を熟読する。 【参考文献】Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964</p>		
4. テーマ	第4章: 直ぐ捉えることと、今まさに起こっていることとは		
	【学習の目標】学校臨床心理学における研究のデータの捉え方として、問題の在り方を議論する。		

【学習の内容】	ハイデガーの捉える、人の存在の仕方を理解する。
【キーワード】	Availableness/ Occurrentness/ Equipment/ Deliberate Action
【学習の課題】	教科書第4章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
5. テーマ	第5章：世界観について
【学習の目標】	学校臨床心理学における研究のデータの捉え方として、社会環境の在り方を議論する。
【学習の内容】	ハイデガーの捉える、人が存在する世界の意味を理解する。
【キーワード】	The Worldliness of the World/ Four Senses of World
【学習の課題】	教科書第5章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
6. テーマ	第6章：デカルト学派の現代版に対するハイデガーの批評
【学習の目標】	学校臨床心理学における研究のデータの捉え方として、ハイデガーの批判を議論する。
【学習の内容】	オントロジーに対するハイデガーの批判を通して、人の存在の仕方を理解する。
【キーワード】	Nature as Available/ Nature as Occurrent
【学習の課題】	教科書第6章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
7. テーマ	第7章：空間性と空間
【学習の目標】	子どもの問題と向かい合うためには必然的な家庭・学校をはじめとする子どもの社会環境の在り方を議論する。
【学習の内容】	存在する位置づけにこそ存在の意味があることを理解する。
【キーワード】	Spatiality and Space/ Dasein's Location
【学習の課題】	教科書第7章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
8. テーマ	第8章：誰の日常の現存在か
【学習の目標】	子どもの問題と向かい合うためには必然的である子どもと子どもを取り巻く人々の日常の在り方を議論する。
【学習の内容】	自己としての存在の意味を子どもはどう捉えているのかを理解する。
【キーワード】	Being-With/ Human Being as Shared Social Activity/ das Man/ Everydayness
【学習の課題】	教科書第8章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
9. テーマ	第9章：3段階構造の内存在について
【学習の目標】	ここまでのまとめ。
【学習の内容】	ハイデガーのオントロジーについて再確認する。
【キーワード】	Dasein Being-in-the World
【学習の課題】	教科書第9章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
10. テーマ	第10章：不自然性について
【学習の目標】	本来性と不自然性について議論する。
【学習の内容】	ハイデガーの本来性について理解する。
【キーワード】	Affectedness/Mood/ Thrownness/ Fear and Anxiety
【学習の課題】	教科書第10章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
11. テーマ	第11章：理解とは
【学習の目標】	オントロジーの観点から考える「理解する」ことについて理解する。
【学習の内容】	ハイデガーの本来性と自己理解について議論する。
【キーワード】	Understanding/ Authentic and Inauthentic Understanding/ Interpretation
【学習の課題】	教科書第11章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
12. テーマ	第12章：言うことと感覚とは
【学習の目標】	学校臨床フィールドにおけるナラティブアプローチおよびインタビュー研究の語りの捉え方を考える。
【学習の内容】	ハイデガーの言語・言葉の捉え方について理解する。
【キーワード】	Language/ Sense/ Communication/ Intelligibility
【学習の課題】	教科書第12章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
13. テーマ	第13章：身をまかすこととは
【学習の目標】	学校臨床フィールドにおけるナラティブアプローチおよびインタビュー研究の語りの捉え方を考える。
【学習の内容】	ハイデガーの言語・言葉の捉え方について理解する。
【キーワード】	idle talk/ Reflexivity and Distortion/ Fallenness
【学習の課題】	教科書第13章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964H
14. テーマ	第14章：配慮構造について
【学習の目標】	本来性と配慮構造について議論する。
【学習の内容】	ハイデガーの本来性について理解する。
【キーワード】	The Self/ Temporality as Making Sense of Care
【学習の課題】	教科書第14章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964
15. テーマ	本講義のまとめと考察
【学習の目標】	ハイデガーの捉えるオントロジーと学校臨床フィールドにおける現状を理解する。
【学習の内容】	現実の世界に生きる子どもたちを理解するうえでのハイデガーのオントロジーの限界について議論する。
【キーワード】	Reality/ Truth/ Everydayness
【学習の課題】	教科書第15章を熟読する。
【参考文献】	Heidegger, Martin (細谷貞夫・亀井裕・船橋弘訳)「存在と時間(上・下)」理想社、1964

